



市立病院

内科系常勤医ゼロに?

辞職申し出 来月末まで 民間と待遇に差

【江別】江別市立病院の内科系の医師七人が相次いで辞職を申し出て、九月末には内科系の四つの診療科の常勤医師がゼロになる可能性が強まっている。同病院は二〇〇四年度末で累積欠損金が三十四億円余りに達したため経営健全化計画を策定、本年度から五力年で取り組み始めたばかり。医師不在で、計画遂行にも急ブレーキがかかりそうだ。

(中尾吉清)

健全化に黄信号

消化器科の常勤医師は、たに辞職するのは循環器科七月までに辞職した。新科の四人、呼吸器科二人、

全内科医が辞職 江別市立病院

過酷勤務「燃え尽きた」

「江別」市の内科系七人が九月末、辞職を江別市立病院、市立十月以降の出発を要する。外務科の休む、最悪の事態に陥る。市立病院の経営は、正常化の途程に立っている。医師不足と患者を減らす計画が、同病院内にあり、

夜間の重患 一手に

■医師

「江別」市の内科系七人が九月末、辞職を江別市立病院、市立十月以降の出発を要する。外務科の休む、最悪の事態に陥る。市立病院の経営は、正常化の途程に立っている。医師不足と患者を減らす計画が、同病院内にあり、



医師不足が外務科が急増している江別市立病院の待合室。

経営優先？遅れた対応

■市

【江別】市立病院の内科系七人が九月末、辞職を江別市立病院、市立十月以降の出発を要する。外務科の休む、最悪の事態に陥る。市立病院の経営は、正常化の途程に立っている。医師不足と患者を減らす計画が、同病院内にあり、

弱まる医局の力

■大学

【江別】市立病院の内科系七人が九月末、辞職を江別市立病院、市立十月以降の出発を要する。外務科の休む、最悪の事態に陥る。市立病院の経営は、正常化の途程に立っている。医師不足と患者を減らす計画が、同病院内にあり、

内科(内分科系)一人の計七人。一人は地元で開業するが、残りは市外の民間病院などに移る。昨年八月には内科系の常勤医師は十二人いた。流出が激しいのは、池田和司事務長によると、「民間病院との労働条件の差が大きい」という。今春、院長が辞任し、そのまま空席となっている。市立病院には夜間急病診療所(夜診)が併設されている。当直医が救急医療にも駆り出され、「負担が重すぎる」と指摘されていた。このため、市は夜診の分離を急ぎ、十月一日に錦町別館に移転オープンさせるが、常勤医師の辞職を食い止める決め手にはならなかった。非常勤の医師で外来の診療をまかなっている。医師不足の解消へ、抜本的な待遇改善も求められそうだ。